

第4回 シグマ委員会核データグループ 計算サブグループ会合議事録

日時： 昭和41年7月29日(金) 13:30~17:00

場所： 原研東海研究所 第6会議室

出席者： 西村，五十嵐，田中茂，菊地康，神田，中村，八谷 以上7名

配布資料：

- 1) 統計モデルによる核分裂断面積計算コードについて 白やき A4, 7 p.
- 2) 同上 (その2, 計算手順) 白やき A4, 8 p.
- 3) KAPL-3085 OPTIC 白やき B5, 45 p.

議事：

- 1) 核分裂断面積計算コードの計算手順について 中村，八谷両委員提案

配布資料 1) および 2) 参照

statistical modelの計算で使用されるパラメータの決め方について説明があつた。パラメータのきめ方についてはcharge distributionやmass distributionの実験値が必要であるので、これらの情報について協力が求められた。

今回は計算コードの作成手順について説明を行なう予定である。なおプログラム作成は近くIBMに依頼し、データの収集解析に竹腰夫人の協力を求める。

- 2) Moldauerの理論による計算コードについて 田中委員提案

NEARREXはCDC-3600とIBM-7044で使用できるようになつた。高エネルギーへの拡張を図りたい。

現在のNEARREXで計算可能であるかどうか。

Hanser-Feshbachの計算と高エネルギー範囲(中重核で ~ 4 MeV)でどれほど差が出るか。また競争過程である(n, p), (n, r)などの断面積もELIESEの計算結果と比較したら、パラメータの効果が分かるのではないか、などが問題になつた。

これらの事項は次回の勉強会で引き続き検討を行なう。

3) 既成計算コードの調査収集について 五十嵐委員提案

核データの評価用として既成計算コードの調査収集を行なつてはどうかという提案があり、主旨は全員賛成であつたが、組織が問題となつた。窓口としては当分の間五十嵐委員があたることになつた。

4) 共鳴領域を含む高エネルギー領域での断面積計算コードについて

五十嵐委員提案

OPTICを参考にしてELIESEコードを拡張したい。

5) 新しいコードの作成提案 西村委員提案

エネルギー-resolutionの悪い ~ 100 keV領域での $\langle \sigma_t \rangle$ の実験データ解析のため、strength function $S(0)$, $S(1)$, $S(2)$ ----を計算するコード作成について提案があつた。

この問題は核物理研究室で見通しを立てて再提案してもらうことにした。